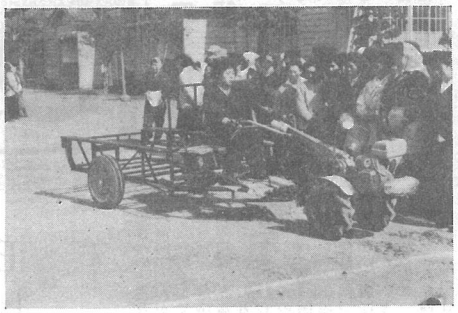
私たちも免許を

：若妻学級で運転講習会：

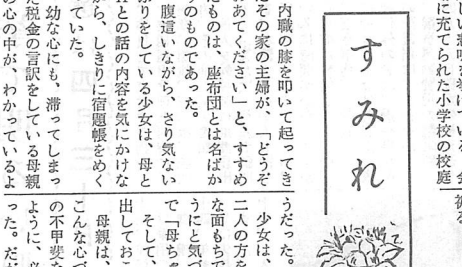
俗に「三ちゃん」農業など と呼ばれる程、農村にも大きな変革の波が押寄せてきており、「かあちゃん」の役割も重要度を加えてきた。とうちゃんがいないときに耕耘機の運転位できなくては、と最近 今の農業経営においては益々 も及び、その対象も若妻ばかりでなく、一般の人にも解放して、無免許運転の解消に乗り出している。準備に当る教育委員会も予想外の盛況さに嬉しい悲鳴を挙げている。会場に充てられた小学校の校庭では女性のこの方面に対する認識は非常に深いものがある。

本町でも大総地区の若妻学級の要請ではじまった耕耘機の運転講習 習りものであった。



練習する講習生

は、その後大きな反響を呼んで全地区にひろがり、今では回を重ねこの心の中が、わかっているよ



すみれ

内職の膝を叩いて起ってきたその家の主婦が、「どうぞ請ではじおあてください」と、すすめたものは、座布団とは名ばかは、その

腹這いながら、さり気ないふりをしている少女は、母とHとの話の内容を気にかけながら、しきりに宿題帳をめくっていた。

幼な心にも、滞ってしまった税金の言訳をしている母親

と九回に

では、時ならぬはなやかな受講生を相手に、講師先生も大張切りで、手に手をとって教え合う、ほほえましい風景が展開された。講師には成東警察署の交通係員、農協職員、農事研究会員、業者などそれぞれベテラン揃いで、この講習の成果が期待されている。

なお、この出張試験は四月二十三日、松尾中学校で行われることになりました。準備おさおさ怠りなく、全員合格を祈る。

昭和37年12月20日確定基本選挙人名簿登載人員調
（字別・男・女別表）

地区	大字	男	女	合計
上堺	屋形島水町山田上下沼町町川田	430	539	969
〃	新北東栗鳥喰喰喰喰喰	167	222	389
〃	横芝	255	277	532
〃	〃	412	512	924
〃	〃	356	417	773
〃	〃	89	99	188
〃	〃	84	90	174
〃	〃	115	122	237
〃	〃	95	74	136
〃	〃	372	473	845
〃	〃	248	292	540
〃	〃	92	97	189
〃	〃	36	48	84
〃	〃	63	73	136
〃	〃	25	54	79
〃	〃	25	30	55
〃	〃	71	92	163
〃	〃	50	70	120
〃	〃	20	27	47
〃	〃	135	156	291
〃	〃	169	181	350
〃	〃	47	53	100
〃	〃	59	74	133
〃	〃	127	147	274
〃	〃	86	99	185
〃	〃	54	63	117
合計		3,676	4,381	8,057
外整理名簿（未定）		4	4	8
第一補充合計		3,680	4,385	8,065

備考　選挙人名簿登載者数で、この数から死亡、転出、失権者等差引きになるので、これを加えるとほぼ選挙権者数となります。なお補充選挙運動上の御参考

初化粧

母は朝から寿司をつけるの…チエツつまんねえの」に忙しい。昨年五月に父を失い、母子三人の貧しい家庭ながらも、姉は今年中学を卒えて町内の某製本会社に勤めはじめ、下には中学に入学したばかりの弟がいる。

今日は姉の最初の休日である。「姉ちゃん、今日はハイキングだっていうのに、まるで、ち見合いみたいにきれいだなー」。突然、弟の、それもしみじみとした言葉である。母は台所でこちらを眺めながら笑っている。しかし寿司を握る手は休みがない。姉の和子ちゃんは、生れて始めての化粧である。

父を失ってこの方、中学校も休み勝ち、何もしてやれなかった母の心づくしのお白粉なのである。

「まあ……幸雄ちゃん……中学生になったら、急に生意気になったねー」

「うゝん、本当のことを言って貰めてるのに…」

「国民年金なんて三十年も後のことを考えて生きて行けるもんか」という職人仲間の反対の中で、

「俺達の思給組合みたいなもんだ。保険料も俺とお前の二人併せたって一日十円がとこ節約すればいいんだ。第一、白髪頭を抱えて子供達に小遣をせびっているのも、見られた図じゃあるまい」と、毎日の日当の中から十円づつ、手製の竹筒に投げ入れて、

「これが年金保険料だ」といいながら笑っていた夫が、まるざまると目の前に浮んで来るのであった。

突然不帰の客となった夫、悲しむにも暇のない生活との戦い、退職金は勿論、何の保証もない自家職人、夫の腕一本に頼っていた家庭は悲惨であった。折も折、二人の姉弟は、共に修学旅行にぶつかった。弟の幸雄は、中学進学で今一度修学旅行の機会がある が、すぐ社会へ出る筈の和子 は、何とか参加させたいのであった。親類には泣きついて……と 考えていた時、

「御主人の御不幸を謹しんで、ほのかな香りをただよわせていた。

しては、御夫妻とも、国民年金保険料が完納されておりますので、母子年金受給資格が ありますから請求書をお出し下さい」という書類が役場から届けられたあの時の嬉しさ。思わず「貴方どうも有難う」と言って手紙を持って来た用務員さんを面喰わせたのも恥かしい思い出となっている。そして、八月には四千円、十一月、二月とそれぞれ六千円づつ、この五月には又六千円が支給される筈である。お蔭で、長女は楽しい修学旅行を土産に、高校進学を思い止まって、就職試験を受け、幸いに合格すると「今度は、私が竹筒にお金を入れるわ、そのお金で幸雄を高等学校に進ませる資金にしましょう」と毎日三十円づつを投入し始めたのである。……

貴方、あの竹筒のお金も三倍になったし、子供達もこんなに大きく、それぞれ立派に成長しています。……

……と心の中の夫に話しかけ、瞬時の幸福感に自らを包んでいた。

「お母さん、何してんの？お弁当まだ？　幸雄はもうすっかり張切っているの。早く仕度しましょうよ」

「……あゝ……そうだね、早くしましょうね。お前達が余り大きくなったので、すっかり見とれていたんだよ」

本心とも言訳ともつかず、返事をする母に、南の窓から一ぱいに差込む太陽が明るくほほ笑みかけている。

そう言えば、「落しちゃう」と言っていた和子さんのお白粉も、上手に粧われ生ぬるい春風に、そよそよと、ほのかな香りをただよわせていた。

傷つけたことに気付いて真顔にかえると、

あんたのお金ぐらいではしょうがないってさ！

大きいお札でなければ駄目なんだよ！

そう云って淋しく笑った。

少女は、大人の社会に介入したことが、差しでがましいことだった、と思ったのか、貧しさへの少女らしい恥らいからか、耳まで真赤にして黙りこくってしまった。

Hは心苦しくなった。

そのとき、外から馳けこんできた、五、六才の男の子は、母に纏りついて大声でお金をせびりはじめた。

母親が、これにとりあわないで邪険に振りはなすと、無視されたことに怒りを込めて、火のつくように泣きわめいた。

Hは、昼食のために用意していたパンを取りだして「お姉ちゃんと二人で分けるんだよ」と念をおして差しだすと、ツブラな眼を見張って、なおもシャクりあげながら、両手でそれを受けとった。

母親は恐縮して、「あら、あら、すいません」「トシちゃん、ありがとは？」と云ったが、幼児は、母の言葉が耳に入らないもののように、二ツのパンを見くらべて、一ツを無言で姉に渡してやると、いま泣いたことが嘘のように表へ馳けだしていった。

その後姿には、思いなしか生活からくる暗い翳があった。

幼児の走り去ったあとには、ちょっとの間、音のない「時」が流れた。

Hは疲れを覚えた。

そして、一時も早くこの雰囲気から退れようとして「じゃあ何れまた」と、つじつまあわせをいう言葉を残して、やおら腰をあげた。

ふと眼を移すと、ささやかな庭の片隅に咲いた可憐な草花には、たどたどしい文字の花の名札が差してあって、

「すみれ」と、記してあった。

広報豆知識

「左ぎっちょ」

人間は右利きが本能だが、これは、言語中枢が大脳の左半分にあるためである。手の運動神経も、その言語中枢と隣り合せにある関係から、その運動神経は、その言語中枢の支配によって右利きになっている。ところが左利きはその反対に言語中枢も手の運動神経も大脳の右側にあるためにおのずから左利きになってしまう。しかし、左利きの人でも、子供の頃から右の手を使うように仕向けると、自然と普通人と同じ右手が自由に使えるようになるものである。その場合でも左利きは別に退化しない。だから、左利きの人の右手を自由に使うようにすれば、左右両手が使えるようになり、普通人よりも、かえって良い能力の持ち主になれるものである。

「桜の葉の保存法」

桜の葉を長持ちさせるには、若葉が大きくなりきったころに、葉の柄をつくるときは、洗ってから使う。

同じ方法で、桜の花の塩づけを作ることもできる。この場合、ツボミだと固く、開いた花は散りやすいので、半開の花を塩をつんで、洗わずにそのまま塩づけにする。桜の種類は何でもかまわない。

福祉年金の改正
国会で審議中

福祉年金について、年金額の引き上げ、支給制限の緩和を中心とした改正案が、国会で審議中です。その主なものをあげると、

(1) 老令福祉年金の額を一万二千円から一万三千二百円に、障害福祉年金を一万八千円から二万千六百円に、母子および準母子福祉年金を一万二千円から一万五千六百円にそれぞれ引き上げる。（三十八年九月から）

(2) 支給制限の緩和は、現行の一五万円を一八万円とする。その結果、たとえば福祉年金受給権者が義務教育終了前の子ふたりと生活している場合は、一八万円と子供ふたりの加算額六万円計二四万円をこえる所得があるときに限り、福祉年金の支給が停止される。

(3) 身体障害児の制限年齢一六才未満を、二〇才未満とする。（三十八年五月から）などであります。

二等陸海空士
自衛官募集
〆切　5月31日
詳しくは
役場総務課へ

編集後記

この広報が皆さのお手許に届くころは、桜の花も終りに近づいていることと思います。

編集子も親しまれる広報紙をモットーに常に心がけておりますが、最近皆さんの御意見をあまり聞かして頂けないのが残念です。

皆さんの反響をお待ちしております。

郷土の人
横綱小錦

小錦は慶応三年（一八六七年）十月、横芝町上町に岩木屋という料理屋をいとなむ岩井弥吉を父として生まれ、八十吉と名づけられた。父は岩木川と名乗って土地相撲の大関、八十吉は小さいときから肥満体だったので力士にしたいと、栗生出身の響矢にたのみ込み、明治十三年十四才のとき、本家の長次郎、妹の主人儀助の三人を上京させ、初代高砂に見てもらったところ、八十吉だけがめがねにかない入門となった。

一度逃げ帰ったが、父に連れられて地方相撲を取っているうちに決心がつき、十七才のとき再入門。十六年夏、小錦の名で序ノ口、六年目の二十一年五月、二十二才で九枚目へ入幕、二十二年五月小結、二十三年五月には関脇を飛び越えて大関に昇進、二十九年三月横綱を免許された。

横芝町上町に岩木屋という料理屋をいとなむ岩井弥吉を父として生まれ、八十吉と名づけられた。父は岩木川と名乗って土地相撲の大関、八十吉は小さいときから肥満体だったので力士にしたいと、栗生出身の響矢にたのみ込み、明治十三年十四才のとき、本家の長次郎、妹の主人儀助の三人を上京させ、初代高砂に見てもらったところ、八十吉だけがめがねにかない入門となった。

一度逃げ帰ったが、父に連れられて地方相撲を取っているうちに決心がつき、十七才のとき再入門。十六年夏、小錦の名で序ノ口、六年目の二十一年五月、二十二才で九枚目へ入幕、二十二年五月小結、二十三年五月には関脇を飛び越えて大関に昇進、二十九年三月横綱を免許された。

三十才の横綱というのは過去に例のない若さ、一六七センチという歴代横綱中最も低い身長であるが、体重は一二〇キロ、まるまるとふとり、色白の美男子で、突張りが得意、出足が鋭く、俊速、巧者な取口だったという。

入幕後、大関になるまで一敗もせず、大関十二場所中（うち三場所全休）に負け七つの好成績だった。横綱になってからは衰えが見えて、六場所後の三十三年夏限りで引退した。入幕以来の成績は百十九勝、二十四敗、引き分け預かり十五、勝率八割三分二厘。七回優勝し、三十一連勝の記録がある。

二十一歳重五郎を襲名、検査役、取締にも選ばれ、引退後、二十山田の五大山妙王院にあり、横芝にも分骨された。戒名は震九院揚威武徹居士。